



一般社団法人 日本LD学会

会 報 第 98 号

Japan Academy of Learning Disabilities

【事務局】 〒108-0074 東京都港区高輪 3-24-18 高輪エンパイヤビル 8F
TEL:03-6721-6840 URL:<http://www.jald.or.jp>

主な記事

- ・高等学校における特別支援教育
- <連続講座>
 - ・障害者差別解消法とは
 - ・就労等における合理的配慮
 - ・海外情報
- <お知らせ>
 - ・第25回大会（東京）のご案内
 - ・新役員等のご紹介



高等学校における通級による 指導の制度化に向けて

静岡大学教育学部

大 塚 玲

先日、市内のスクランブル交差点を渡っているときのことである。前方から、新聞紙を広げて読みながら斜めに横断して来る青年と遭遇した。ワイシャツにスラックス姿でリュックサックを背負ったその青年は、高校生くらいの年齢にみえた。あっけにとられながらその姿を視線で追うと、青年は新聞紙をきちんと折りたたんでリュックサックにしまうと、とあるサポート校が入居しているビルに入っていった。

サポート校とは、私立通信制高校に在籍する生徒に対して卒業資格取得をサポートする教育施設である。不登校や発達障害などのため全日制高校に通うことが困難であったり、高校を中退したりした人たちの学びの場としての役割も果たしている。件の青年が発達障害かどうかは不明だが、歩行者としてのルールとマナーを学ぶ必要があることは明らかだ。若者の新聞離れが指摘されるなか、新聞を読む習慣を身につけているのは、ある意味感心ではある。しかし、それも時と場所を選ぶ必要がある。そのような常識と、おそらく彼が身に

つけないといけないその他のさまざまなソーシャルスキルは、サポート校で教えてもらうことができるのだろうか。

平成19年度は特別支援教育元年といわれた。当時小学校1年生だった子どもたちは、今年高校1年生の年齢となる。この10年で、高等学校に特別支援教育はどれほど浸透していったのであろうか。

今年3月、「高等学校における特別支援教育の推進に関する調査研究協力者会議」は、「高等学校における通級による指導の制度化及び充実方策について」をとりまとめ、高等学校における通級による指導を平成30年度から開始することなどを、文部科学省に提言した。これは、発達障害のためにさまざまな困難を抱える高校生にとって朗報であろう。しかし、通級による指導で青年期の彼らに何をどのように指導するのか、本人や保護者、担任、周りの生徒たちにどのように説明し、理解を得るのかなど、通級による指導の実施に向けて準備しておくことは少なくない。